

2. 女性と少女：エンパワーメントが発展を促す

女性と少女への抑圧を無くすことがあらゆる面の発展を加速する。

70億人の世界においては、全ての人々が平等の権利と尊厳を享受すべきである。私たちは、世界の半分を占める人口の潜在能力を失ってはならない。女性や少女に対して投資をすることは、費用効率が高く、世界が直面する困難な課題に立ち向かうために不可欠である。女性が健康で教育を受け、社会参加が可能であれば、自らの家族、コミュニティーだけでなく、国にも発展をもたらすことができる。

しかしながら、女性は現在も世界中で差別と暴力に脅かされている。女性は男性に比べ、土地所有や、信用供与の利用、就職の面で差別され、政策決定権をほとんど持たずにいる。女性の社会的役割は、たいていの場合、文化や宗教によって規定されているが、それは生物学的なものではない。これら社会によって規定された女性の立場は、地域により異なるものであり、またで絶えず変化するものでもある。

女性に対する教育を普及させ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを推進することにより、女性たちの置かれている現状を改善し、生産性を高めることができる。更に、現代に生きる人々のみならず、将来の世代の見通しを改善することにもつながる。

女性たちの収入のほとんどは、家庭の食費、教育と医療に費やされる。だからこそ女性や少女に対して投資することは、経済成長を促進し、コミュニティーに平和と安定をもたらし、家族を強くすることにつながり、その結果、国家の安全を高めることができる。

—現状—

- 1979年、国連は女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(Convention on the Elimination of all forms of Discrimination against Women, **CEDAW**)を承認した。この条約は、世界中の女性の人権と平等を保障するための青写真となった点で、大きな意義を持つ。
- 多くの場合、法律や習慣により、教育、土地所有、相続、信用供与、仕事における昇進などに関して、女性や少女たちは制約を受けている。家庭内暴力に対する法律もしばしば法的拘束力を持たない。ジェンダーの平等の達成のためには、これらの分野で大きな力を持っている男性のサポートが必要とされるのである。

- 世界の7億7,600万人の非識字者のうち、2/3を女性が占めている。
- 女性は世界の労働の2/3を担い、食糧の半分を生産しているにも関わらず、世界の総収入のたった10%しか得ることができず、財産は1%しか所有しない。
- 男子が望まれる傾向のため、男女産み分けの中絶が行われたり、女兒の育児放棄が原因で、1億3,400万人以上の女性が「行方不明」となっている。
- サハラ以南アフリカでは、経済的、社会的に立場の弱い15–24歳の少女および女性は、同年代の男性に比べ2倍もHIVに感染しやすい。
- HIVの抗レトロウィルス薬の普及は進んではいるが、必要としている女性の半分にも届いていない。
- 70%の女性が生涯のうち暴力の被害を受けている。15–44歳の女性の性的暴力による死亡および障害の割合は、同年代の女性のガンの死亡率と同じである。
- 1億100万人以上の初等教育を受けるべき学齢児童が学校に通うことができずにいる。そしてこのうちの半分以上が女性である。
- リプロダクティブ・ヘルスが保障されていないことが、開発途上国に住む15–49歳の女性の死亡及び障害の主要な原因となっている。
- 90秒に1人、つまり毎年35万人以上の女性が妊娠・出産を原因とする合併症により亡くなっており、そのほとんど（99%）が開発途上国に集中している。

—最近の傾向—

- CEDAWに批准した186カ国は、4年ごとにその進捗状況を報告をしている。この条約により、売春や家庭内暴力が減少し、教育及び職業訓練の機会が増え、投票権が保障され、妊産婦の健康が改善され、若年・強制結婚が撲滅し、相続権が保障されるなど、さらに世界中で多くの成果をあげている。
- 例えば、出産前後の健診や出産時の緊急産科ケアなど、先進国が当然のように行っている

費用効率の高い方法によって、ほとんどの妊産婦の死は防ぐことができる。

- 女性に対し、家族計画サービス、妊産婦・新生児ケアなどの総合的な保障をすることで、妊娠や早産による死亡によって起こる66%の生産性の損失を埋めることができる。
- 既成概念によって形成された女性の役割と性差別は幼少期に始まる。つまりこの時点から、家庭における少女と少年、男性と女性の役割について、ジェンダーの平等を推進するような取り組みを始める必要がある。